

せんだい GREEN アクションアワード表彰事業者「高橋写真製版」



高橋写真製版 代表取締役の高橋健一郎さん（左）、取締役の高橋千春さん

有限会社高橋写真製版は、取締役が従業員全員に省エネ・地球温暖化対策の実践に向けて声掛けをし、一丸となって温室効果ガス削減に取り組む姿勢が高く評価された。代表取締役の高橋健一郎さんはこの評価について、「社員を巻き込み、ひとりひとりが環境のことを考えて努力してくれたおかげ」と言う。

高橋さんによると、省エネに熱心に取り組んできたのはもっぱら妻で取締役の高橋千春さんであるとのこと。20年以上前から使っている古い空調は効きも悪く、従業員にとっても環境にとってもよくないのではないかという思いから買い替えを決意。温室効果ガス削減アクションプログラムへの参加を決めた。

「新しいエアコンは電気の消費量をすぐ確認できるのがいいところ」と千春さん。電気消費量が明確に見える化されたことにより寒い時期にどれだけ電気を使っているかがよくわかり、できるだけ節電したいという意識が高まったという。

空調設備を新しいものに取り替えるだけではなく、建物自体にも工夫を施した。社屋には断熱材が使われておらず寒い時期には冷えやすいため、風の入り込む隙間を埋めることからスタート。

ビニールカーテンなどを使って断熱性能を高め、冷えにくい環境づくりにも努めている。



空調や照明などを使用する際の無駄の削減の徹底を従業員全員で取り組む

細かい運用面にも気を配り、照明をこまめにオン・オフしたり使わない部屋の空調は切ったりとできる限り無駄を削減する。エアコンの設定温度も夏は28度、冬は20度としているが「最初は防寒対策などの工夫をしないで、エアコンの設定温度を上げてしまう従業員もいた」とのこと。従業員の意識を高め省エネに協力してもらえるよう説明し、会社としても防寒用衣服の購入費を補助する、寒さ対策を周知する、節電で得たインセンティブを還元するなどサポートを行っている。

温室効果ガス削減のための取り組みについて、「環境にもいい上に経費も節約でき、行動した分だけ効果が出るのでやりがいもある」と話す千春さん。今後も照明のLED化など、さらなる環境負担の軽減に取り組む計画だ。